

那珂川町図書館

オススメの1冊

『ラン』

森 絵都／著 理論社 【F モリ】

『ラン』。タイトルだけ見るとマラソンやリレーの小説かなと想像しますが、この小説の主人公・環(たまき)の走る動機はほかの小説の主人公と違い少し変わっています。

13歳のとき事故で両親と弟を、20歳で同居していた叔母を亡くし孤独な毎日を送っていた環。ある時、近所の自転車屋の紺野さんと、彼の猫のこよみを通じて仲良くなります。彼もまた同じように家族を亡くし、孤独を抱えていました。やがてこよみが死んでしまったことをきっかけに紺野さんはお店を畳み、実家に帰っていきます。別れ際に紺野さんは、亡き息子にあげるはずだった特別な自転車〈モナミー号〉を環に贈ってくれました。このモナミー号で寂しさを紛らわせるために疾走していると、いつの間にか自分がモナミー号に導かれ、死後の世界に来てしまったことに気づきます。この物語の中では『冥界と下界を結ぶ連絡通路(レーン)』があり、そこを行き来することを〈レーン越え〉と表現しています。家族や叔母に会えて大喜びで毎日のようにレーン越えしていた環でしたが、『本当の持ち主である紺野さんの息子がモナミー号に憑りつき、返して欲しがっていること』『本来レーン越えするとき乗り物に乗るのはご法度で、死後の世界に来たければ、自分の足で夜中から明け方までに約40kmを行って帰ってこなければならない』ということを知ります。家族に会いたい一心で走り始めた環。毎朝とお昼休憩の時間まで走っていると、その姿を見ていたある変人ぞろいのマラソンチームに声を掛けられ、彼らとフルマラソンに出場することになります。環は無事フルマラソンと〈レーン〉を走りきることができるのでしょうか？

私は高校生の際に初めてこの本を読みました。初めから終わりまで目が離せず、一気に読んでしまいました。読者に直接環が世間話をしてくるような調子で物語が綴られていき、環の友達になって、隣に座って聞いているような気分でした。努力したり負けず嫌いな姿はところどころ自分に似たところがあるので「がんばれ、環！」と心の中で応援したりしました。

読み切るとスカッとして自分も頑張ろうと思える大好きな本です。ぜひ皆さんも読んでみてください。

那珂川町図書館 (いちご大福)